科目名	学年	単位	授業時間	科目区分	授業形態	学修単位
国語Ⅰ(現代文・漢文) : Japanese Ⅰ	1SCB	2	90分×30回	履修	講義・通年	ー

教員名	畑村学 : HATAMURA Manabu
授業概要	1年間を定期試験を区切りとして4つに分け、前期は、(1)読解と要約:文章を読み大事な箇所やキーワードを探す、主観と客観により線を引き分ける、要約文を書く、(2)図解:文章を構造化する簡単な図の作成、図を説明する説明文の書き方を学習する。後期は、(3)スピーチ・プレゼン:1～3分間でスピーチ・プレゼンを行う。原稿の書き方、話し方、聴き方、質問の仕方を学習、(4)意見文・小論文:主題、段落構成を意識した文章の作成を学習する。 また、1年間を通じて漢字テスト(漢字問題集)、読書(年間20冊。一行感想)を継続して行う。授業ではレポート課題を出し、到達目標として掲げる4つの力の定着をはかる。

到達目標	評価方法
(1)読書の習慣が身につく。年20冊以上の本を読み、読んだ本に対してコメントが書ける。大事な箇所やキーワードに線を引き分けながら文章が読める。(読む力) (2)型を利用して文章が書ける。長文を読んで要約、コメントができる。文章の内容を要約する簡単な図が書ける。漢字検定3級をクリアできる程度の漢字の知識が身につく。(書く力) (3)スピーチやプレゼンテーションの基本を学習し、テーマや構成が明確であり、説得力のある話し方(声、態度、資料の示し方)ができる。(話す力) (4)スピーチの評価ができる。スピーチに対して具体的で本質的な質問やコメントができる。(聴く力)	①定期試験(中間・期末試験)、②レポート及び提出物により評価する。各評価は、①定期試験60%、②レポート・口頭試問等40%とし、4回の評価の平均を学年末の成績とする。国語Ⅰ[3単位]の最終評価は、国語Ⅰ(現代文・漢文)[2単位]と国語Ⅰ(古文)[1単位]を2:1として総合的に評価する。

学習・教育目標	(G)①	JABEE基準1(2)	

授業計画 回	項目	内容
第1	ガイダンス	国語の授業概要・到達目標・成績評価方法等をシラバスを中心に説明し、一年間の授業内容を理解する。
第2	読解と要約①	「要約」とは、複雑な事象のなかから大事な箇所を抜き出し、それを整理して提示したものである。情報化社会では、大量の情報の中から重要なものを選び、秩序立てて再構成する作業には「要約力」が必要となる。また、要約力は、対話やコミュニケーションにおいても必要である。 授業では、教科書や教科書掲載以外の文章を教材として要約力を鍛える。具体的な作業として、文章に線を引いたり、キーワードに印をつけながら読んでいく。線の引き方にはポイントがあるので、最初にそれを学習してから文章を読む。 線を引いた箇所を引用して「要約文」を書く。シンプルな要約文の7～9割は本文の引用であり、残りがつなぎの言葉や補足の言葉である。線を引いたもっとも大事な箇所や、文中のキーワードは必ず要約文に引用する。 以上の作業を授業やレポート等でくり返し行うことで、要約力を養う。
第3	読解と要約②	
第4	読解と要約③	
第5	読解と要約④	
第6	読解と要約⑤	
第7	読解と要約⑥	
第8	中間まとめ	中間まとめとして試験を実施する。
第9	図解①	文章を読解・要約するための図の基本的な書き方を学習する。また、図を説明する説明文の書き方を理解する。 国語で言う図とは、文章の構造を理解して、文中の語句の「関係」を、文中のキーワードや表現を利用しながら、矢印や図形を使って簡潔に表すことである。 図は最もシンプルな要約である。複雑な物事や事柄をわかりやすい図として提示できる能力は、プレゼンテーションなどでも必要とされる。 テキストは教科書に掲載される現代文や漢文および新聞記事、広告などを用いる。 レポート作業として、身のまわりの様々な事象を図解する。
第10	図解②	
第11	図解③	
第12	図解④	
第13	図解⑤	
第14	図解⑥	
第15	図解⑦	

授業計画 回	項目	内容
第16	スピーチ・プレゼン①	本単元では、スピーチやプレゼンテーションを行うための「発表メモ」の書き方、スピーチ・プレゼンの仕方(話し方、態度など)、聴き方、質問・コメントの仕方を学ぶ。 スピーチやプレゼンの内容は、発表メモを利用し、テーマや内容の構想を練る。 実際の授業では、2～8名程度の少人数のグループで行う。発表者は話し方や時間配分を考えて話す。また、前期に学習した図解の知識と技術を活かし、スピーチやプレゼンに効果的な資料を作成し、それを使って話をする。 聴く側は、スピーチやプレゼンを審査する。また、スピーチやプレゼンに対して質問やコメントを行う。質問やコメントは、本質的で具体的なものを心がける。 以上を繰り返し行うことで、話す力・聴く力を習得する。
第17	スピーチ・プレゼン②	
第18	スピーチ・プレゼン③	
第19	スピーチ・プレゼン④	
第20	スピーチ・プレゼン⑤	
第21	スピーチ・プレゼン⑥	
第22	スピーチ・プレゼン⑦	
第23	中間まとめ	中間まとめとして試験を実施する。
第24	意見文①	本単元では、自分の意見や考えを深く鋭い根拠をもとに述べる「意見文」「小論文」の書き方を習得する。 授業では、教科書掲載の現代文や漢文(特に思想教材)、また、学生にとって身近な学内の諸問題や、教育に関わる社会問題を課題として取り上げる予定である。 授業では、200～1200字程度の意見文・小論文を、プリントを利用して書く。プリントを利用することで、主題が明確で、段落を意識した文章が書けるようになる。 課題を変えて何度も繰り返し書くことで、主旨が明確で、段落構成のしっかりした文章の書き方を習得する。
第25	意見文②	
第26	意見文③	
第27	意見文④	
第28	意見文⑤	
第29	意見文⑥	
第30	意見文⑦	

自学自習の内容	レポートの完成度や提出状況などで判断する。
関連科目	
教科書	精選国語総合 大修館書店
参考書	『ステップアップ高校漢字問題集(東京書籍)・カラー版新国語便覧(第一学習社)
授業評価・理解度	最終回に授業評価アンケートを行う。
副担当教員	
備考	プリントをファイルするバインダー等を各自準備。授業時や休憩時間に読む本を必ず持参すること。

科目名	学年	単位	授業時間	科目区分	授業形態	学修単位
国語Ⅰ(古文):Japanese Ⅰ	1SCB	1	50分×30回	履修	講義・通年	ー

教員名	三浦 美枝:MIURA YoSHIE
授業概要	日本の古典文学における様々なジャンルの作品を鑑賞します。毎時間古文の音読を行うことによって、まずは日本語の美しさを味わいます。それから作品を読みながら、基本的な古文常識や文法事項を学習します。作品の読解を通して、時代によって変わっていくもの(人々の生活・風習・ものの考え方など)と、現代の私達も共感できる、時代を経ても変わらない人間の情感とを読み味わっていきます。

到達目標	評価方法
(1)正しく音読ができるようにする。 (2)基礎的な古語・古典文法を理解し、現代語訳できるようにする。 (3)各作品の主題をとらえ、作品を鑑賞する力を養う。	定期試験(中間・期末試験)80% 小テスト10% 提出物10% 国語Ⅰ(3単位)の最終評価は、国語Ⅰ(現代文・漢文)と国語Ⅰ(古文)を2:1として評価する。

学習・教育目標	(G)①	JABEE基準1(2)	

授業計画

回	項目	内容
第1	ガイダンス	授業の目的、内容などを説明する。
第2	宇治拾遺物語	『宇治拾遺物語』の文学的知識を深める。また、古文の仮名遣いや品詞について学習する。
第3	宇治拾遺物語	「絵仏師良秀」を読み、動詞の活用や係り結びの法則について学習する。
第4	宇治拾遺物語	「絵仏師良秀」を読解し、説話文学を読む面白さを味わう。関連して芥川龍之介の小説にもふれる。
第5	徒然草	『徒然草』の文学的知識を深める。「つれづれなるままに」を音読し、内容を読み取る。
第6	徒然草	「高名の木登り」を読み、助動詞について学習する。
第7	徒然草	「高名の木登り」 を古語・文法を学習しつつ読み、主題をとらえる。
第8	中間のまとめ	前期の中間のまとめとして、試験を実施する。
第9	伊勢物語	『伊勢物語』の文学的知識を深める。
第10	伊勢物語	「あづま下り」を音読し、古語・文法を学習しつつ読解する。
第11	伊勢物語	作中の和歌を鑑賞し、歌物語の作品の特徴をとらえる。
第12	土佐日記	『土佐日記』の文学的知識を深める。日本語の文字表記の歴史を学習し、この作品の文学史的意義を理解する。
第13	土佐日記	「門出」を音読し、古時刻・古方位の表し方、月の異名について学習する。
第14	土佐日記	「門出」を音読し、古語・文法を学習しつつ読解する。
第15	土佐日記	「門出」を音読し、古語・文法を学習しつつ読解する。
第16	枕草子	『枕草子』の文学的知識を深める。
第17	枕草子	「春はあけぼの」を音読し、助詞について学習する。
第18	枕草子	「春はあけぼの」を音読し、古語・文法を学習しつつ読解し、随筆を読む楽しさを味わう。
第19	枕草子	「雪のいと高う降りたるを」を古語・文法を学習しつつ読解する。
第20	枕草子	「雪のいと高う降りたるを」を古語・文法を学習しつつ読解し、主題をとらえる。
第21	平家物語	『平家物語』の文学的知識を深める。
第22	平家物語	「祇園精舎」を音読・暗唱し、古語・文法を学習しつつ読解し、そこに表された無常観について考える。
第23	中間のまとめ	後期の中間のまとめとして試験を実施する。
第24	平家物語	「先帝身投」を音読し、敬語法について学習する。
第25	平家物語	「先帝身投」を音読し、古語・文法を学習しつつ読解する。
第26	平家物語	「先帝身投」を読解し、作者の書こうとしたことをとらえる。
第27	奥の細道	『奥の細道』の文学的知識を深める。
第28	奥の細道	「平泉」を音読し、古語・文法を学習しつつ読解する。
第29	奥の細道	作中の俳諧を味わい、俳諧についての基礎知識を学習する。
第30	1年間のまとめ	1年間の学習内容のまとめを行う。また授業評価のアンケートを実施する。

自学自習の内容	次回学習する古典作品をノートに書写し、音読する。
関連科目	
教科書	精選 国語総合(大修館)
参考書	改訂 増補 カラー版 新国語便覧(第一学習社)
授業評価・理解度	最終回に授業評価アンケートを行う。
副担当教員	畑村学
備考	国語Ⅰ(3単位)の最終評価は、国語Ⅰ(現代文・漢文)と国語Ⅰ(古文)を2:1として評価する。